

全社横断組織を新設し、 新事業開発・営業機能の実効性を向上

マクセルでは新規事業の早期立ち上げと既存成長事業の強化を目的として、事業本部の垣根を越えた全社横断組織による開発案件の全社推進と営業部門の一元化を進めています。MEX23の次のフェーズ(第2フェーズ)に向けて新規事業を仕込み、持続的な成長を実現していきます。

マクセルは、これまで基礎・応用研究開発を行う本社の開発部門とともに、各事業本部内に開発部門があり開発業務を進めていましたが、限られたリソースからは既存事業の延長線上の「新製品」は生まれても、大きな固まりとしての「新事業」を創出することはなかなかできませんでした。

この課題を解決するために、各事業本部内にあった開発テーマとリソースを一つに集め、新規事業創出のみを推進する組織として、2021年4月に新事業統括本部を新設しました。各事業本部で新規開発を担当していた技術者を集め、マクセル全社の技術シナジーを生み出せる土台ができたことが大きな変化です。

技術とは、品質、コスト、デリバリー、サービスのすべてが揃って初めて成り立つため、開発業務を設計業務に変える必要があります。新事業統括本部は、開発するだけで終わりではなく、それを売れる製品にするための設計業務(エンジニア思想)をしっかり行います。お客様情報をもとに、マクセルの持つ技術を組み合わせ、営業部門と連携しながら「お客様の課題解決に必要な価値のある技術」として売れる製品に仕上げ、さらに新規事業の業績貢献に導いていることが新事業統括本部のミッションです。

一方営業部門についても、これまでは事業部営業体制でしたが、所属事業本部の製品を中心に取り扱

うという本質的な課題がありました。この課題を解決するために、営業部門にも全社横断機能が必要ということで、各事業本部内に点在していた営業部門を切り出して一つの組織としたのが営業統括本部です。事業本部主導から営業統括本部主導にすることで、「プロダクト・アウト」からより「マーケット・イン」のビジネスモデルに転換していくことも新組織立ち上げの目的です。発足後の新たな試みとして、事業部門の垣根を越えたクロスセルを開始しています。これまでは、電池は電池の営業というように活動が限定されていましたが、他の事業部で扱う製品も積極的に提案していく試みです。

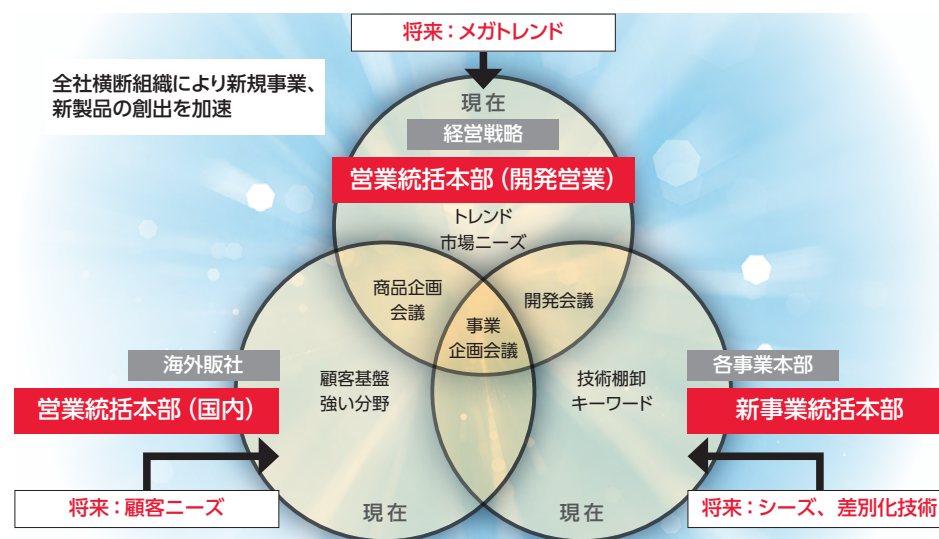
もう一つ重要な点は、新事業統括本部と連携した将来につながる新事業の開拓です。既存ビジネスの販路や商流、お客様がどのような課題を抱えているのかなどを情報共有し、マクセルの持つ技術を棚卸しし、将来マクセルが戦っていける領域、製品、技術を選定し、方針や戦略を策定します。コアの技術を組み合わせ、既存製品の延長線上ではない、新たな商材に仕上げていくという形でビジネスを伸ばしていきます。また、米州、欧州、アジアも同様の横断組織にして、日本が中心になって海外に展開するという形ではなく、グローバルに横並びに展開していく組織とし、4極グローバル営業体制を強化していきます。



新事業統括本部長
佐野 健一



営業統括本部長
石渡 正泉



2030年に向けた技術開発の方向性

	~2023年	~2026年	~2030年
ヘルスケア	全固体電池	バイタルセンシング向け全固体電池	衛生管理機器(誰もか使える簡検出装) 医療機器向け画像処理
5G / IoT	MID製品	電磁波吸収部材	FA機器向け全固体電池
	空中ディスプレイ	インフラ系IoTシステム	透明電磁波吸収シート 電磁波吸収(テラヘルツ対応)
モビリティ	AR-HUD	省エネ車両向け部材	LIB寿命診断AI(リユース・リサイクル貢献) 生分解性樹脂・分解リサイクル
		ガラスMID	路面描画ヘッドライト
		車載センサ	金属一体MID

全社横断組織を新設し、新事業開発・営業機能の実効性を向上

新事業開発の具体例


マクセルグループのシナジー創出の取り組み事例として

「HUD(ヘッドアップディスプレイ)」、「電磁波吸収部材」の状況と今後の展開についてご紹介します。



HUD(ヘッドアップディスプレイ)



市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ HUD搭載車販売台数：W/W約1,000万台（2022年） ※ 当社調べ ・ AR-HUDの搭載は、車のCASE*技術の革新化と、安全性向上により、2023年以降拡大（マクセルAR-HUD製品は、2021年4月より量産開始）
特長	<p>マクセル独自の映像光学技術によるハイスペック製品を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 虚像表示距離13m、サイズ世界最小クラス等 ※ 当社調べ 
マクセルの強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクター製品開発で培った技術の集約（光学技術、遠方表示、高画質映像技術、小型化、省電力化） ・ 超高精度金型技術と内製成形技術 自社開発ミラー／レンズなどによる小型化 ・ AR-HUD製品組込み技術

* CASE: C (Connected: コネクテッド)、A (Autonomous: 自動運転)、S (Shared & Service: シェアリング／サービス)、E (Electric: 電動化)

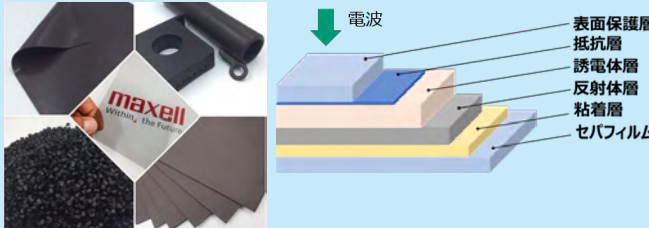
今後の展開

AIS（オートモティブ・イメージング・システム）事業は、映像技術と光学技術の優位性を活かし、最大市場である中国に進出後、グローバル展開していきます。

車載映像製品としてAR-HUDを導入しましたが、マクセルの映像技術は、車内・車外映像表示機器としてエンターテインメントを含めた製品や、車以外のさまざまな分野に向けた映像製品を展開できる可能性が極めて高いと考えています。マクセルは、非接触型の空中ディスプレイなど、新たなニーズに応じていくための開発も先行して進めており、高輝度や高視認性を実現できる技術の強みを活かして、新たな分野に新しい製品を展開していきます。

電磁波吸収部材



市場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車載機器（ミリ波レーダー等）用ノイズ対策部材 ・ 5G及び次世代高速通信用ノイズ対策部材
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 透明薄膜シート、ゴムシートやエンプラ樹脂等ラインアップ ・ 透過型の吸収特性 ・ 各周波数帯対応 車載76～81GHz 移動体：28～GHz ・ 広い入射角度でも安定した吸収性能
マクセルの強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 均一分散、薄膜塗布などアナログコア技術 ・ 基本特許保有（国内19件、海外PCT11件：欧米中台） 

今後の展開

ベースとなる技術は、マクセルのアナログコア技術です。「まぜる」「ぬる」「かためる」技術を融合させて、お客様のご要望に合わせたさまざまな吸収特性に対応します。また今後は、2030年に実用化が見込まれている、テラヘルツ波に対応した吸収部材の研究開発を進め、6Gなど次世代高速通信実用化へ貢献していきます。